

認知症高齢者東京アプローチ社会実装事業 (AIとIoTにより認知症高齢者問題を多面的に解決する東京アプローチの確立)

大学研究者による事業提案制度の概要

採択年度：令和元年度（有識者等による審査と都民投票の結果を踏まえ採択）
実施大学：国立大学法人 電気通信大学
実施期間：令和2年度から令和4年度まで

事業概要

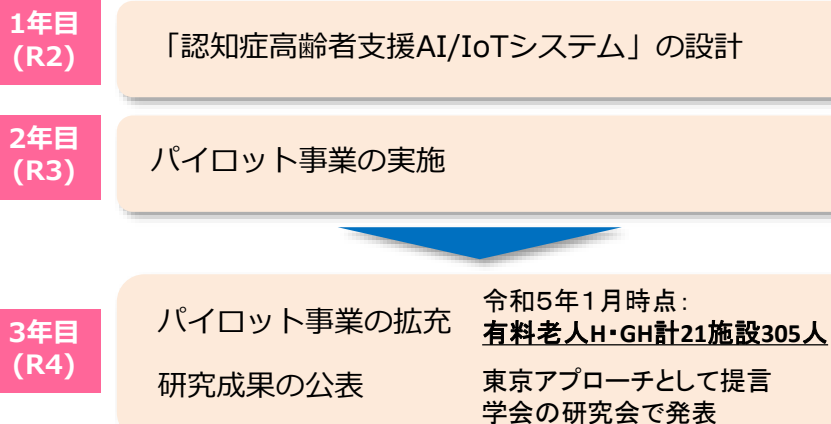
【目的】 AIとIoTを用いて認知症のBPSDの発症を予測し、予防支援策を導くことで、認知症高齢者のQOLの向上、家族・介護者の負担軽減を図る。

【概要】 ① 「認知症高齢者支援AI/IoTシステム」のパイロット事業の実施

- AIとIoTを用いて、認知症のBPSDの発症を予測し、その方の状態に応じた適切なケアの方法を提案する「認知症高齢者支援AI/IoTシステム」を大学が設計。
- 大学と都が連携し、都内の介護施設等を対象に、「認知症高齢者支援AI/IoTシステム」のパイロット事業を実施し、評価する。

② 都全域で実施する「東京アプローチ」の提言

大学が、都全域で実施するためのシステム設計（例：家庭配布用の簡易IoTデバイス）、制度設計（例：介護保険を用いた機器の貸し出し・補助）を行い、「東京アプローチ」としてまとめ、都に提言する。



令和5年度 事業実施計画

【概要】 令和2～4年度に大学提案事業として実施した「認知症高齢者支援AI/IoTシステム」のパイロット事業を継続して実施するとともに、将来的な社会実装に向けた検討を行う。

1 全体調整

【実施予定時期】 4月～3月

【実施計画】 全体調整（定期連絡会の開催等を含む）

2 システムの運用・改善

【実施予定時期】 4月～3月

【実施計画】 ①簡易的IoTデバイスを運用
②全体システム、システム各部の改善と強化

3 AI分析、医療・介護専門分析及び予測AI導出の評価

【実施予定時期】 4月～3月

【実施計画】 データの蓄積→AIによる仮説生成→医療・介護専門家による分析→新方式（予測AI・対処手法）導出→新方式による介護→データの蓄積、というPDCAの循環に対し、出現頻度、質、有効性などを分析した結果の評価と予測AI・対処手法導出の評価

4 パイロット事業の継続

【実施予定時期】 4月～3月

【実施計画】 AIの精度向上のためR4のパイロット事業を継続し、引続きデータを収集（30施設500人規模を想定）

5 システム全体の評価

【実施予定時期】 7月～3月

【実施計画】 システム設計及び稼働実績等を総合的に分析し評価

6 社会実装に向けた検討

【実施予定時期】 4月～3月

【実施計画】 将来的な社会実装に向けた具体的なサービス手法を検討し、学会の大会で発表